教 職 課 程

1. 教職課程の履修について

世田谷キャンパスでは、理数系を中心とした専門教育・研究によって、主に科学技術者の養成を行っている。その中にあって、教職課程の果たす役割は、どういうところにあるのだろうか。

これまで日本は、科学技術に関しては技術立国といわれるほどに世界の先端を進んできた。学校教育は、その時々時代の要請に応えながら、理数教育・科学技術教育を通して必要な人材を育成し、この社会を支えてきた。近年、「知識基盤社会」への転換が叫ばれ、社会構造の急激な変化を余儀なくさせられている。少子高齢化、グローバル化、情報社会化が進む中、知識集約型の生産性の高い産業構造への転換が進められている。これに対し市民は、これら科学技術の成果を批判的に取り入れながら、十分に使いこなすことが求められてきている。そのためには、科学技術を正しく理解し、これを生活のレベルに積極的に活用し、あるいはまた環境問題や持続可能な世界を視野に入れながら豊かな生活を築くことが必要になる。他方で、子どもたちの理数離れが進行し、理数科目の選択回避や理数系大学の進学者の減少がもたらされ、今後さらに求められる科学技術とこれを基盤とした社会の維持・発展が危ぶまれている。

こうした現状を救うには、真の理数教育が必要なのである。それができるのは、理数教科の教員たちであり、特に学問としての数学、自然科学、技術学の楽しさを実感として味わってきている教員たちである。

現在皆さんは、自分で選択した学科に所属し、これから専門的知識・技能を身につけ、関連する分野で活躍しようとしている。それら専門の内容・知識・技能は、将来の自分を支え、あるいは社会を支える大きな柱になる。機械系、電気系、エネルギー系、建築・都市系、情報系、自然科学系で学ぶ専門的知識は、学校教育で扱う理数教科の基礎的知識の上に積み上げられ、またこれらの知識を発展・活用したものである。こういった背景をもった皆さんが、本学教職課程で学び、将来教職に就けば、他大学の教員養成学部を卒業した教員とは異なり、教科に関する知識・技能に比べものにならないくらい幅広い広さ、深さを持つことになる。

子どもたちを理数教科に引き戻すには、彼らに興味を抱かせることが第一歩となる。そしてその一歩を足がかりに、豊かな学力を保障し、科学技術の本質的な理解をもたらし、同時に環境問題、持続可能な社会を築くためにはどうすればよいかを、子どもたちとともに探究できるのは、十分な専門的知識と豊かな教養を身につけた本学で育つ教員こそであると確信する。

なお、教員免許取得を志す者には、教職員免許法に基づいて、必要な科目の単位を修得することが求められる。以下、その詳細について説明する。

2. 免許状について

学校教育法（昭和22年法律第26号）でいう「学校」（小学校・中学校・高等学校・幼稚園等々）の教員となるためには、教育職員免許法（以下「免許法」という）に定める、各相当学校の教員の相当免許状を有していなければならない。

教員免許状は免許法所定の科目の単位を修得した後、所定の手続により所轄庁に申請し、授与される。

本学知識工学部では、教職課程を開設し、中学・高等学校の普通免許状の取得に必要な科目を開講している。免許状の取得に必要な、卒業要件条件とは別の基準による。つまり、知識工学部の当該学科を卒業するために必要な科目の単位を修得し、あわせて教職課程で定められた科目の単位を修得することである。

3. 本学知識工学部で取得できる免許状の種類

本学知識工学部の教職課程では、次の3種類の普通免許状を取得することができる。

中学校教諭	一種免許状	「数学」	情報科学 情報ネットワーク 経営システム 自然科学
高等学校教諭	一種免許状	「数学」	情報科学 情報ネットワーク 経営システム 自然科学
中学校教諭	一種免許状	「理科」	自然科学
高等学校教諭	一種免許状	「理科」	自然科学
高等学校教諭	一種免許状	「情報」	情報科学 情報ネットワーク 経営システム

4. 履修資格等

- (1) 教職課程を履修することができる者は、武蔵工業大学学則第4条に定める工学部及び知識工学部の学生で、教職課程の承認を受けた者とする。
- (2) 下記の分野ごとに、取得希望の教員免許状・免許教科の種類に応じ、科目の単位を修得する。

- ① 教職に関する科目
 - ② 教科に関する科目
 - ③ 教科又は教職に関する科目
 - ④ 共通科目（教育職員免許法施行規則第66条6に定める科目）
- (3) 単位は、講義・実技・実験により、定められた授業時間数を出席した者で、試験等に合格した者に与える。
- (4) 教職課程を履修する者が、教師となる資質・能力に欠けると認められる場合、又は履修に際して、望ましくない行為があった場合、その履修を中止させ、再履修は認めない。
- (5) 教職課程に関する事務は、教務部教務課において行う。

5. 履修手続

(1) ガイダンス

教職課程履修等に関するガイダンスは、毎年4月と9月に行う。

(2) 教職課程履修登録

①教職課程登録

教職課程登録は教職課程登録料が必要となる。本学1号館1階証明書発行機にて申請書（教職登録料）を購入し、申請書を本学教務課へ提出することで登録が完了となる。登録期間は前後期に時間割で指示する。

②申請書の提出により、人数の面で差し支えない限り、当該年次より教職課程の履修を許可する。

教職課程履修希望者が学力不足、及び教職適性を欠くときは、原則として履修を許可しない。

③履修申告

履修許可を得た者は、学期初めに、その学年で履修する科目を履修申請する。なお、履修申請は学期初めに別途指示する。

(3) 教職課程登録料、介護等体験費及び教育実習費

教職課程登録料、介護等体験費及び教育実習費は、下記の額を納入する。（平成22年4月現在）教職科目が専門科目となっている場合がある。教員免許取得を前提にする場合は、必ず登録料を払うこと。

教職課程登録料	10,000円（1～4学年のうち登録時のみ納入）
介護等体験費	約10,000円（履修年度のみ納入）
教育実習費（教育実習(1)）	3,000円（3学年の教育実習時のみ納入）
教育実習費（教育実習(2)）	10,000円（4学年の教育実習時のみ納入）

一旦納入した教職課程登録料、介護等体験費及び教育実習費は、理由の如何にかかわらず返還しない。なお、教職課程登録料及び介護等体験費及び教育実習費は、経済情勢の変動等により、今後改訂することがある。

6. 免許状の種類と資格

中学校及び高等学校の教諭の一種免許状を授与されるために必要な資格は、免許状・免許教科の種類により、次の表の通りである。なお、この詳細は後述を参照すること。

資格				免許状の種類	
				中学校教諭 数学・理科	高等学校教諭 数学・理科・情報
				一種免許状	
基礎資格				学士の学位を有すること	
資格	大学における 最低修得単位数	科目分野	教職に関する科目	31単位	23単位
			教科に関する科目	20単位	
			教科又は教職に関する科目	8単位	16単位
			共通科目	8単位	
	総計			67単位	

7. 教職課程 履修総括表

	中 学 校 教 諭																																			
	数 学	理 科																																		
教職に関する科目 授業科目の詳細は 表1 参照	<table border="1"> <thead> <tr> <th>科目区分</th> <th>最低修得単位数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①教職の意義等に関する科目 ○ 教職の意義及び教員の役割 ○ 教員の職務内容（研修、服務及び身分保障等を含む。） ○ 進路選択に資する各種の機会の提供等</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>②教育の基礎理論に関する科目 ②-1 教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想 ②-2 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程 （障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む。） ②-3 教育に関する社会的、制度的又は経営的事項</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>③教育課程及び指導法に関する科目 ③-1 教育課程の意義及び編成の方法 ③-2 各教科の指導法 ③-3 道徳の指導法 ③-4 特別活動の指導法 ③-5 教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>④生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目 ④-1 生徒指導の理論及び方法 〃 進路指導の理論及び方法 ④-2 教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>⑤教育実習</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>⑥教職実践演習</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="text-align: right;">合計 31</td> </tr> </tbody> </table>		科目区分	最低修得単位数	①教職の意義等に関する科目 ○ 教職の意義及び教員の役割 ○ 教員の職務内容（研修、服務及び身分保障等を含む。） ○ 進路選択に資する各種の機会の提供等	2	②教育の基礎理論に関する科目 ②-1 教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想 ②-2 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程 （障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む。） ②-3 教育に関する社会的、制度的又は経営的事項	6	③教育課程及び指導法に関する科目 ③-1 教育課程の意義及び編成の方法 ③-2 各教科の指導法 ③-3 道徳の指導法 ③-4 特別活動の指導法 ③-5 教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）	12	④生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目 ④-1 生徒指導の理論及び方法 〃 進路指導の理論及び方法 ④-2 教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法	4	⑤教育実習	5	⑥教職実践演習	2	合計 31																			
	科目区分	最低修得単位数																																		
	①教職の意義等に関する科目 ○ 教職の意義及び教員の役割 ○ 教員の職務内容（研修、服務及び身分保障等を含む。） ○ 進路選択に資する各種の機会の提供等	2																																		
	②教育の基礎理論に関する科目 ②-1 教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想 ②-2 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程 （障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む。） ②-3 教育に関する社会的、制度的又は経営的事項	6																																		
	③教育課程及び指導法に関する科目 ③-1 教育課程の意義及び編成の方法 ③-2 各教科の指導法 ③-3 道徳の指導法 ③-4 特別活動の指導法 ③-5 教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）	12																																		
	④生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目 ④-1 生徒指導の理論及び方法 〃 進路指導の理論及び方法 ④-2 教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法	4																																		
⑤教育実習	5																																			
⑥教職実践演習	2																																			
合計 31																																				
教科に関する科目 授業科目の詳細は 表2 参照	<table border="1"> <thead> <tr> <th>科目区分</th> <th>最低修得単位数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>数1 代数学</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>数2 幾何学</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>数3 解析学</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>数4 「確率論、統計学」</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>数5 コンピュータ</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="text-align: right;">合計 20</td> </tr> </tbody> </table>	科目区分	最低修得単位数	数1 代数学	1	数2 幾何学	1	数3 解析学	1	数4 「確率論、統計学」	1	数5 コンピュータ	1	合計 20		<table border="1"> <thead> <tr> <th>科目区分</th> <th>最低修得単位数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>理1 物理学</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>理2 物理学実験 （コンピュータ活用を含む。）</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>理3 化学</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>理4 化学実験 （コンピュータ活用を含む。）</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>理5 生物学</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>理6 生物学実験 （コンピュータ活用を含む。）</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>理7 地学</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>理8 地学実験 （コンピュータ活用を含む。）</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="text-align: right;">合計 20</td> </tr> </tbody> </table>	科目区分	最低修得単位数	理1 物理学	1	理2 物理学実験 （コンピュータ活用を含む。）	1	理3 化学	1	理4 化学実験 （コンピュータ活用を含む。）	1	理5 生物学	1	理6 生物学実験 （コンピュータ活用を含む。）	1	理7 地学	1	理8 地学実験 （コンピュータ活用を含む。）	1	合計 20	
	科目区分	最低修得単位数																																		
数1 代数学	1																																			
数2 幾何学	1																																			
数3 解析学	1																																			
数4 「確率論、統計学」	1																																			
数5 コンピュータ	1																																			
合計 20																																				
科目区分	最低修得単位数																																			
理1 物理学	1																																			
理2 物理学実験 （コンピュータ活用を含む。）	1																																			
理3 化学	1																																			
理4 化学実験 （コンピュータ活用を含む。）	1																																			
理5 生物学	1																																			
理6 生物学実験 （コンピュータ活用を含む。）	1																																			
理7 地学	1																																			
理8 地学実験 （コンピュータ活用を含む。）	1																																			
合計 20																																				
※高等学校「数学」と同一																																				
教科又は教職に関する科目 授業科目の詳細は 表3 参照	<table border="1"> <thead> <tr> <th>科目分野</th> <th>最低修得単位数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>教科に関する科目</td> <td rowspan="3" style="text-align: center;">合計 8</td> </tr> <tr> <td>教職に関する科目</td> </tr> <tr> <td>教職に関する科目に準ずる科目</td> </tr> </tbody> </table>		科目分野	最低修得単位数	教科に関する科目	合計 8	教職に関する科目	教職に関する科目に準ずる科目																												
	科目分野	最低修得単位数																																		
教科に関する科目	合計 8																																			
教職に関する科目																																				
教職に関する科目に準ずる科目																																				
上記の「教科に関する科目」及び「教職に関する科目」の各区分の必要最少単位数を超えて修得する科目																																				
共通科目 授業科目の詳細は 表4 参照	<table border="1"> <thead> <tr> <th>科目群</th> <th>最低修得単位数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>日本国憲法</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>体育</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>外国語コミュニケーション</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>情報機器の操作</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="text-align: right;">合計 8</td> </tr> </tbody> </table>		科目群	最低修得単位数	日本国憲法	2	体育	2	外国語コミュニケーション	2	情報機器の操作	2	合計 8																							
	科目群	最低修得単位数																																		
	日本国憲法	2																																		
	体育	2																																		
	外国語コミュニケーション	2																																		
情報機器の操作	2																																			
合計 8																																				
※高等学校と同一																																				
総 合 計	67単位	67単位																																		

高 等 学 校 教 諭

数 学

理 科

情 報

科 目 区 分	最低修得単位数	
①教職の意義等に関する科目 ○ 教職の意義及び教員の役割 ○ 教員の職務内容（研修，服務及び身分保障等を含む。） ○ 進路選択に資する各種の機会の提供等	2	合計 23
②教育の基礎理論に関する科目 ②-1 教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想 ②-2 幼児，児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程 （障害のある幼児，児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む。） ②-3 教育に関する社会的，制度的又は経営的事項	6	
③教育課程及び指導法に関する科目 ③-1 教育課程の意義及び編成の方法 ③-2 各教科の指導法 ③-3 道徳の指導法 ③-4 特別活動の指導法 ③-5 教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）	6	
④生徒指導，教育相談及び進路指導等に関する科目 ④-1 生徒指導の理論及び方法 " 進路指導の理論及び方法 ④-2 教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法	4	
⑤教育実習	3	
⑥教職実践演習	2	

科目区分	最低修得単位数	合計 20
数1 代数学	1	
数2 幾何学	1	
数3 解析学	1	
数4 「確率論，統計学」	1	
数5 コンピュータ	1	

※中学校「数学」と同一

科目区分	最低修得単位数	合計 20
理1 物理学	1	
理2 化学	1	
理3 生物学	1	
理4 地学	1	
理5 「物理学実験 （コンピュータ活用を含む）、化学実験 （コンピュータ活用を含む）、生物学実験 （コンピュータ活用を含む）、地学実験 （コンピュータ活用を含む）」	1	

科目区分	最低修得単位数	合計 20
情1 情報社会及び情報倫理	1	
情2 コンピュータ及び情報処理 （実習を含む。）	1	
情3 情報システム（実習を含む。）	1	
情4 情報通信ネットワーク （実習を含む。）	1	
情5 マルチメディア表現及び技術実習を含む。）	1	
情6 情報と職業	1	

科 目 分 野	最低修得単位数
教科に関する科目 上記の「教科に関する科目」及び「教職に関する科目」の各区分の必要最少単位数を超えて修得する科目	合計 16
教職に関する科目	
教職に関する科目に準ずる科目	

科 目 群	最低修得単位数
日本国憲法	2
体育	2
外国語コミュニケーション	2
情報機器の操作	2
合計 8	

※中学校と同一

67単位

67単位

67単位

22 表1 教職に関する科目

各教科免許について定められた、科目区分ごとの必要単位数を修得すること。

科目区分 (詳細は右頁)	授業科目	単位数		週時間数								担当者 (平成22年度現在)
				1年		2年		3年		4年		
				前	後	前	後	前	後	前	後	
①	○教職論	2	☆		2							井上 健
②	②-1	教育の思想と歴史 (1)	2	☆		2						井上 健
		教育の思想と歴史 (2)	2	☆			2					井上 健
		○教育原論	2	☆	2							角田 多加雄
		教育学 (1)	2	☆	2							稲葉 敏雄
	②-2	教育学 (2)	2	☆		2						角田 多加雄
		教育心理学	2	☆	2							千田 茂博
		発達心理学 (1)	2	☆	2							水野 直樹
		発達心理学 (2)	2	☆		2						彦坂 正樹
	②-3	学習と動機づけ	2	☆	2							千田 茂博
		発達と教育	2	☆		2						千田 茂博
		教育制度論	2	☆			2					吉家 定夫
		教育社会学	2	☆				2				井上 健
③	③-1	○教育課程論	2				2					岩崎 敬道
	③-2	数学教育法 (1)	2			2						岩崎 敬道
		数学教育法 (2)	2				2					田口 哲夫
		数学教育法 (3)	2				2					稲葉 敏雄
		数学教育法 (4)	2				2					稲葉 敏雄
		理科教育法 (1)	2				2					岩崎 敬道
		理科教育法 (2)	2					2				岩崎 敬道
		理科教育法 (3)	2					2				小林 光一
		理科教育法 (4)	2					2				小林 光一
		情報教育法 (1)	2						2			小池 星多
		情報教育法 (2)	2							2		小池 星多
	③-3	○道徳教育の理論と方法	2			2						岩本 俊一
	③-4	○特別活動の理論と方法	2			2						稲葉 敏雄
	③-5	教育の方法と技術 (1)	2	☆			2					荒川 信行
		教育の方法と技術 (2)	2	☆				2				荒川 信行
④	④-1	○生徒指導・進路指導の理論と方法	2		2							岩本 俊一
	④-2	教育相談とカウンセリング (1)	2	☆	2							水野 直樹
		教育相談とカウンセリング (2)	2	☆		2						水野 直樹
⑤	教育実習 (1)	2						2			岩崎敬道, 井上健, 稲葉敏雄	
	○教育実習 (2)	3							3		岩崎敬道, 井上健, 稲葉敏雄	
⑥	○教職実践演習 (中・高)	2								2	岩崎 敬道, 井上 健	

☆ 卒業要件の自由選択の単位数に算入される。但し、知識工学部の場合、知識工学専門科目と同一名称の科目は専門科目としての修得となる。

科目担当者を変更することもある。

科目区分の詳細	最低修得単位数				
	中学校教諭		高等学校教諭		
	数学	理科	数学	理科	情報
①教職の意義等に関する科目 ○ 教職の意義及び教員の役割 ○ 教員の職務内容（研修、服務及び身分保障等を含む。） ○ 進路選択に資する各種の機会の提供等	2単位	2単位	2単位	2単位	2単位
②教育の基礎理論に関する科目 ②-1 教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	②-1～3から各々1科目以上 計6単位	②-1～3から各々1科目以上 計6単位	②-1～3から各々1科目以上 計6単位	②-1～3から各々1科目以上 計6単位	②-1～3から各々1科目以上 計6単位
②-2 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程（障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む。）					
②-3 教育に関する社会的、制度的又は経営的事項					
③教育課程及び指導法に関する科目 ③-1 教育課程の意義及び編成の方法	③-1～5から各々1科目以上 計12単位 ※以下は除く「理科教育法(1),(2),(3),(4)」,「情報教育法(1),(2)」 ※「道徳教育の理論と方法」は必修	③-1～5から各々1科目以上 計12単位 ※以下は除く「数学教育法(1),(2),(3),(4)」,「情報教育法(1),(2)」 ※「道徳教育の理論と方法」は必修	③-1,2,4,5から各々1科目以上 計6単位 ※以下は除く「理科教育法(1),(2),(3),(4)」,「情報教育法(1),(2)」	③-1,2,4,5から各々1科目以上 計6単位 ※以下は除く「数学教育法(1),(2),(3),(4)」,「情報教育法(1),(2)」	③-1,2,4,5から各々1科目以上 計6単位 ※以下は除く「数学教育法(1),(2),(3),(4)」,「理科教育法(1),(2),(3),(4)」
③-2 各教科の指導法					
③-3 道徳の指導法					
③-4 特別活動の指導法					
③-5 教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）					
④生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目 ④-1 生徒指導の理論及び方法 〃 進路指導の理論及び方法	④-1,2から各々1科目以上 計4単位	④-1,2から各々1科目以上 計4単位	④-1,2から各々1科目以上 計4単位	④-1,2から各々1科目以上 計4単位	④-1,2から各々1科目以上 計4単位
④-2 教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法					
⑤教育実習	5単位	5単位	3単位	3単位	3単位
⑥教職実践演習	2単位	2単位	2単位	2単位	2単位
合計	31単位	31単位	23単位	23単位	23単位

2 2 表2 教科に関する科目

表2 中学校 数学 / 高等学校 数学 (共通)

各教科免許について定められた、科目区分ごとの必要単位数を修得すること。

科目区分	授業科目	単位数		週時間数								担当者 (平成22年度現在)	最低修得単位数
				1年		2年		3年		4年			中学校教諭/高等学校教諭
				前	後	前	後	前	後	前	後		数 学
数1 代数学	▲A 代数学(1)	2	☐			2						井上 浩一	1 単位 ※以下を含むこと ▲A「代数学(1)～(3)」から1科目
	▲A 代数学(2)	2	☐				2					井上 浩一	
	▲A 代数学(3)	2	☐				2					古田 公司	
	各学科開設の 振り替え可能科目		各学科の開設科目で、この科目区分に振り替えることができるものがある。詳細は別表を参照のこと。										
数2 幾何学	▲B 幾何学(1)	2	☐			2						佐藤 シヅ子	1 単位 ※以下を含むこと ▲B「幾何学(1)～(3)」から1科目
	▲B 幾何学(2)	2	☐				2					古田 公司	
	▲B 幾何学(3)	2	☐				2					中井 洋史	
			この科目区分は、各学科の開設科目で振り替えられるものはない。										
数3 解析学			教職課程での開講科目はないので、「各学科の振り替え可能科目」を履修すること。									1 単位	
	各学科開設の 振り替え可能科目		各学科の開設科目で、この科目区分に振り替えることができるものがある。詳細は別表を参照のこと。										
数4 [確率論, 統計学]	● 確率論	2	☐	2								近藤 年示	1 単位 ※以下を含むこと ●「確率論」(必修)
	各学科開設の 振り替え可能科目		各学科の開設科目で、この科目区分に振り替えることができるものがある。詳細は別表を参照のこと。										
数5 コンピュータ			教職課程での開講科目はないので、「各学科の振り替え可能科目」を履修すること。									1 単位	
	各学科開設の 振り替え可能科目		各学科の開設科目で、この科目区分に振り替えることができるものがある。詳細は別表を参照のこと。										
<p>●印は必修科目 ▲印は選択必修科目。▲A, ▲Bから各々1科目以上を修得すること。 科目担当教員は変更することもある。</p> <p>☐ 原則として、卒業要件の自由選択の単位数に算入される。 ただし、学科により多少異なるので、各学科の「履修上の注意事項」を確認すること。また、知識工学部の場合、知識工学専門科目と同一名称の科目は専門科目としての修得となる。</p>											計20単位		

表2 中学校 理科

各教科免許について定められた、科目区分ごとの必要単位数を修得すること。

科目区分	授業科目	単位数	週 時 間 数								担 当 者 (平成22年度現在)	最低修得単位数
			1年		2年		3年		4年			中学校教諭
			前	後	前	後	前	後	前	後		理 科
理1 物理学	各学科開設の 振り替え可能科目		教職課程での開講科目はないので、「各学科の振り替え可能科目」を履修すること。									1 単位
理2 物理学実験 (コンピュータ活用を含む。)	各学科開設の 振り替え可能科目		教職課程での開講科目はないので、「各学科の振り替え可能科目」を履修すること。									1 単位
理3 化学	各学科開設の 振り替え可能科目		教職課程での開講科目はないので、「各学科の振り替え可能科目」を履修すること。									1 単位
理4 化学実験(コンピュータ活用を含む。)	各学科開設の 振り替え可能科目		教職課程での開講科目はないので、「各学科の振り替え可能科目」を履修すること。									1 単位
理5 生物学	各学科開設の 振り替え可能科目		教職課程での開講科目はないので、「各学科の振り替え可能科目」を履修すること。									1 単位
理6 生物学実験 (コンピュータ活用を含む。)	各学科開設の 振り替え可能科目		教職課程での開講科目はないので、「各学科の振り替え可能科目」を履修すること。									1 単位
理7 地学	各学科開設の 振り替え可能科目		教職課程での開講科目はないので、「各学科の振り替え可能科目」を履修すること。									1 単位
理8 地学実験(コンピュータ活用を含む。)	各学科開設の 振り替え可能科目		教職課程での開講科目はないので、「各学科の振り替え可能科目」を履修すること。									1 単位
											計20単位	

表2 高等学校 理科

各教科免許について定められた、科目区分ごとの必要単位数を修得すること。

科目区分	授業科目	単位数	週 時 間 数								担 当 者 (平成22年度現在)	最低修得単位数
			1年		2年		3年		4年			高等学校教諭
			前	後	前	後	前	後	前	後		理 科
理1 物理学			教職課程での開講科目はないので、「各学科の振り替え可能科目」を履修すること。									1単位
	各学科開設の振り替え可能科目		各学科の開設科目で、この科目区分に振り替えることができるものがある。詳細は別表を参照のこと。									
理2 化学			教職課程での開講科目はないので、「各学科の振り替え可能科目」を履修すること。									1単位
	各学科開設の振り替え可能科目		各学科の開設科目で、この科目区分に振り替えることができるものがある。詳細は別表を参照のこと。									
理3 生物学			教職課程での開講科目はないので、「各学科の振り替え可能科目」を履修すること。									1単位
	各学科開設の振り替え可能科目		各学科の開設科目で、この科目区分に振り替えることができるものがある。詳細は別表を参照のこと。									
理4 地学			教職課程での開講科目はないので、「各学科の振り替え可能科目」を履修すること。									1単位
	各学科開設の振り替え可能科目		各学科の開設科目で、この科目区分に振り替えることができるものがある。詳細は別表を参照のこと。									
理5 物理学実験, 化学実験, 生物学実験, 地学実験 (コンピュータ活用を含む)			教職課程での開講科目はないので、「各学科の振り替え可能科目」を履修すること。									1単位
	各学科開設の振り替え可能科目		各学科の開設科目で、この科目区分に振り替えることができるものがある。詳細は別表を参照のこと。									
											計20単位	

表2 高等学校 情報

各教科免許について定められた、科目区分ごとの必要単位数を修得すること。

科目区分	授業科目	単位数		週 時 間 数								担 当 者 (平成22年度現在)	最低修得単位数
				1年		2年		3年		4年			高等学校教諭
				前	後	前	後	前	後	前	後		情 報
情1 情報社会及び 情報倫理	●情報社会と倫理	2	☐				2					山本 史華	1単位 ※●「情報社会と倫理」 は必修
	各学科開設の 振り替え可能科目	各学科の開設科目で、この科目区分に振り替えることができるものがある。詳細は別表を参照のこと。											
情2 コンピュータ及び 情報処理(実習を含む。)		教職課程での開講科目はないので、「各学科の振り替え可能科目」を履修すること。									1単位		
	各学科開設の 振り替え可能科目	各学科の開設科目で、この科目区分に振り替えることができるものがある。詳細は別表を参照のこと。											
情3 情報システム (実習を含む。)		教職課程での開講科目はないので、「各学科の振り替え可能科目」を履修すること。									1単位		
	各学科開設の 振り替え可能科目	各学科の開設科目で、この科目区分に振り替えることができるものがある。詳細は別表を参照のこと。											
情4 情報通信ネットワーク (実習を含む。)		教職課程での開講科目はないので、「各学科の振り替え可能科目」を履修すること。									1単位		
	各学科開設の 振り替え可能科目	各学科の開設科目で、この科目区分に振り替えることができるものがある。詳細は別表を参照のこと。											
情5 マルチメディア表現 及び技術(実習を含む。)		教職課程での開講科目はないので、「各学科の振り替え可能科目」を履修すること。									1単位		
	各学科開設の 振り替え可能科目	各学科の開設科目で、この科目区分に振り替えることができるものがある。詳細は別表を参照のこと。											
情6 情報と職業	●情報社会と職業	2	☐				2					室田 真男	1単位 ※●「情報社会と職業」 は必修
	各学科開設の 振り替え可能科目	各学科の開設科目で、この科目区分に振り替えることができるものがある。詳細は別表を参照のこと。											
<p>● は必修科目 ただし、情報科学科、情報ネットワーク工学科、経営システム工学科では、自学科の科目として開講されているので、履修登録の際には自学科の科目を登録すること。 科目担当教員を変更することもある。</p> <p>情報については、「各学科開設の振り替え可能科目」の中にも、必修や選択必修が設定されるので別表を参照すること。</p>											計20単位		

表2 別表

中学校 数学 / 高等学校 数学 (共通)

—各学科開設の振り替え可能科目

学科 科目区分	教職課程		情報科学科		情報ネットワーク工学科		経営システム工学科	
	授業科目	単位数	授業科目	単位数	授業科目	単位数	授業科目	単位数
数1 代数学	▲A 代数学 (1) ▲A 代数学 (2) ▲A 代数学 (3)	2 2 2	●線形代数学 (1) ●線形代数学 (2)	2 2	●線形代数学 (1) ●線形代数学 (2)	2 2	●線形代数学 (1) ●線形代数学 (2)	2 2
数2 幾何学	▲B 幾何学 (1) ▲B 幾何学 (2) ▲B 幾何学 (3)	2 2 2						
数3 解析学			●微分積分学 (1) ●微分積分学 (2) 微分方程式論 ベクトル解析学 フーリエ解析学 関数論	2 2 2 2 2 2	●微分積分学 (1) ●微分積分学 (2) 微分方程式論 フーリエ解析学 ベクトル解析学 関数論	2 2 2 2 2 2	●微分積分学 (1) ●微分積分学 (2) 微分方程式論 フーリエ解析学 ベクトル解析学 関数論	2 2 2 2 2 2
数4 「確率論, 統計学」	●確率論	2	離散数学 ●基礎確率統計 符号理論	2 2 2	●基礎確率統計 符号理論 離散数学	2 2 2	●基礎確率統計 多変量解析 ●マネジメント数学演習	2 2 1
数5 コンピュータ			●コンピュータ概論 ●数値解析 アルゴリズムとデータ構造 人工知能 オペレーションズリサーチ 計算論 情報数学 暗号理論 ●基礎論理回路	2 2 2 2 2 2 2 2	●数値解析 ●基礎論理回路 ●コンピュータ概論	2 2 2	●数値解析 ●コンピュータ概論 オペレーションズリサーチ ●基礎論理回路	2 2 2 2

●印は必修科目

▲印は選択必修科目。▲A, ▲B から各々1科目以上を修得すること。

自然科学科		最低修得 単位数
授業科目	単位数	
●線形代数学 (1) ●線形代数学 (2)	2 2	1 単位
		1 単位
●微分積分学 (1) ●微分積分学 (2) 微分方程式論 ベクトル解析学 フーリエ解析学 関数論	2 2 2 2 2 2	1 単位
●基礎確率統計 離散数学 自然と数理	2 2 2	1 単位
●コンピュータ概論 ●数値解析 基礎論理回路 計算化学	2 2 2 2	1 単位
		計 20 単位

表2 別表

中学校 理科

—各学科開設の振り替え可能科目

科目区分	教職課程		自然科学科		最低修得 単位数
	授業科目	単位数	授業科目	単位数	
理1 物理学			●物理学 (1) 物理学 (2) 物理学 (3) 現代物理学	4 4 2 2	1 単位
理2 物理学実験 (コピ→研修)			●物理学実験	2	1 単位
理3 化学			●化学 (1) 化学 (2) 分子構造論 生命の化学 分子物性論 分子の運動	2 2 2 2 2 2	1 単位
理4 化学実験 (コピ→研修)			●化学実験	2	1 単位
理5 生物学			●生物学 (1) 生物学 (2) 進化論 動物学 植物学 微生物学 生命と物質	2 2 2 2 2 2 2	1 単位
理6 生物学実験 (コピ→研修)			●生物学実験	1	1 単位
理7 地学			●地学 (1) 地学 (2) 地球変動論 プレート・テクトニクス 宇宙科学 惑星科学 大気・海洋学	2 2 2 2 2 2 2	1 単位
理8 地学実験 (コピ→研修)			●地学実験	1	1 単位
●印は必修科目。 必修科目を除き、8科目区分全体から2単位を含め、計20単位以上を修得すること。					計20単位

表2 別表

高等学校学校 理科

—各学科開設の振り替え可能科目

学科 科目区分	教職課程		自然科学科		最低修得 単位数
	授業科目	単位数	授業科目	単位数	
理1 物理学			●物理学 (1) 物理学 (2) 物理学 (3) 現代物理学	4 4 2 2	1単位
理2 化学			●化学 (1) 化学 (2) 分子構造論 生命の化学 分子物性論 分子の運動	2 2 2 2 2 2	1単位
理3 生物学			●生物学 (1) 生物学 (2) 進化論 動物学 植物学 微生物学 生命と物質	2 2 2 2 2 2 2	1単位
理4 地学			●地学 (1) 地学 (2) 地球変動論 プレート・テクトニクス 宇宙科学 惑星科学 大気・海洋学	2 2 2 2 2 2 2	1単位
理5 物理学実験(コンピ ュータ活用を含む。), 化学実験(コンピ ュータ活用を含む。), 生物学実験(コンピ ュータ活用を含む。), 地学実験(コンピ ュータ活用を含む。)			▲物理学実験 ▲化学実験 ▲生物学実験 ▲地学実験	2 2 2 2	1単位
●印は必修科目。 ▲印は選択必修科目。これらの中から1科目選択必修。					計20単位

表2 別表

高等学校 情報

—各学科開設の振り替え可能科目

学科 科目区分	教職課程		情報科学科		情報ネットワーク工学科	
	授業科目	単位数	授業科目	単位数	授業科目	単位数
情1 情報社会及び 情報倫理	●情報社会と倫理	2	●情報社会と倫理	2	●情報社会と倫理	2
情2 コンピュータ及び 情報処理(実習を含む)			●論理回路 ●プログラミング(1) ●プログラミング(2) プログラミング言語の諸概念 コンピュータシステム オペレーティングシステム ●情報科学基礎及び実験 ハードウェア記述言語 コンピュータアーキテクチャ 情報理論 プログラミング言語処理	2 2 2 2 2 2 3 2 2 2 2	●論理回路 ●情報理論 ●オペレーティングシステム ●プログラミング(1) ●プログラミング(2) ●コンピュータシステム	2 2 2 2 2 2
情3 情報システム (実習を含む)			●ソフトウェア汎論 オブジェクト指向プログラミング ソフトウェア工学 データベースシステム システム解析	2 2 2 2 2	●ソフトウェア汎論 データベースシステム オブジェクト指向プログラミング	2 2 2
情4 情報通信ネットワーク (実習を含む)			●知識工学リテラシー ハードウェア汎論 サービスネットワークシステム コンピュータネットワーク	2 2 2 2	●知識工学リテラシー ●情報ネットワーク工学演習 デジタル通信方式 サービスネットワークシステム コンピュータネットワーク ネットワークセキュリティと管理 トラフィック基礎理論 ネットワーク性能評価法 ハードウェア汎論	2 3 2 2 2 2 2 2 2
情5 マルチメディア表現 及び技術(実習を含む)			●デジタル信号処理 画像処理 パターン認識 コンピュータグラフィックス 音声情報処理 ビジョンコンピューティング インタラクティブ・メディア	2 2 2 2 2 2 2	●信号変換論 ●マルチメディア通信システム 画像処理	2 2 2
情6 情報と職業	●情報社会と職業	2	●情報社会と職業	2	●情報社会と職業	2

●印は必修科目

経営システム工学科		最低修得 単位数
授業科目	単位数	
●情報社会と倫理	2	1単位
●コンピュータシステム アルゴリズム設計 ●プログラミング(1) ●プログラミング(2) 情報理論 オペレーティングシステム	2 2 2 2 2 2	1単位
ソフトウェア工学 データベースシステム オブジェクト指向プログラミング 経営情報システム ●ソフトウェア汎論	2 2 2 2 2	1単位
コンピュータネットワーク サービスネットワークシステム ハードウェア汎論 ●知識工学リテラシー	2 2 2 2	1単位
マルチメディア情報処理 ●ヒューマンメディア実験 コンピュータグラフィックス ●シミュレーション演習	2 2 2 2	1単位
●情報社会と職業	2	1単位
		計20単位

2 2 表 3 教科又は教職に関する科目

各教科免許について定められた、科目分野ごとの必要単位数を修得すること。

科目分野	授 業 科 目	単 位 数	週 時 間 数								担 当 者 (平成22年度現在)
			1年		2年		3年		4年		
			前	後	前	後	前	後	前	後	
教科に関する科目	表2の「教科に関する科目」の最低 修得単位数を超えて履修する科目										
教職に関する科目	表1の「教職に関する科目」の最低 修得単位数を超えて履修する科目										
教職に関する科目 に準ずる科目	介護等体験	1			1						井上 健, 岩崎 敬道
	道徳教育の理論と方法	2	「教職に関する科目」③-3を参照								岩本 俊一
	文化とパーソナリティ	2	「教養科目」として履修								渡辺 昭彦
	教職総合ゼミナール	2			2						岩崎敬道, 井上健

科目担当教員を変更することもある。

2 2 表 4 共通科目（教育職員免許法施行規則第66条6に定める科目）

各教科免許について定められた、科目群ごとの必要単位数を修得すること。

科目群	授 業 科 目	単 位 数	週 時 間 数								担 当 者 (平成22年度現在)
			1年		2年		3年		4年		
			前	後	前	後	前	後	前	後	
日本国憲法	憲法	2	「教養科目」として履修								奥平力, 青柳 卓弥
体育	基礎体育(1)	1	「体育科目」として履修								体育教室
	基礎体育(2)	1	「体育科目」として履修								
外国語 コミュニケーション	Communication Skills(1)	1	2								外国語教室
	Communication Skills(2)	1		2							
情報機器の操作	情報リテラシー		各学科の開講科目として履修 (いずれかの科目は開講されている)								(各学科)
	コンピュータ概論										
	数値解析										
	プログラミング基礎										

最低修得単位数				
中学校教諭		高等学校教諭		
数学	理科	数学	理科	情報
計 8 単位 ※「介護等体験」は必修 ※「道德教育の理論と方法」は除く		計 1 6 単位		

※「介護等体験」は、中学校教諭免許状を取得する場合は必修である。

※「道德教育の理論と方法」は、中学校教諭免許状を取得の場合に、科目区分「教職に関する科目③-3」として修得する科目である。

最低修得単位数				
中学校教諭		高等学校教諭		
数学	理科	数学	理科	情報
各科目群から各々 2 単位以上 計 8 単位 ※「憲法」は必ず修得すること。 ※「基礎体育(1)(2)」は、卒業要件としての必修科目でもある。 ※「Communication Skills (1)(2)」は、卒業要件としての必修科目でもある。				

履修上の注意事項

- 教職課程を履修するに際しては、教育課程表に従って、原則として1年次より周到な履修計画を立てる必要がある。教職課程への履修登録自体は、1年次から4年次まで、どの学年でも可能である。しかし原則としては教職課程カリキュラムと各学科カリキュラムとの整合性を確保するために、1年次からの、遅くとも2年次からの履修スタートが望ましい。
- 教職課程の履修者で、卒業直後に教員を目指す者は、就職機会の多様性・効果性を考えると、2種類以上の一種免許状を取得することが望ましい。また、履修者の事情により履修途中でリタイアしても、それまでに修得できた個々の科目、とくに「教職に関する科目」の単位数は、卒業後にも有効である。例えば、卒業後全国の大学の教職課程に科目等履修生として在籍する場合、既得の単位数は履修単位に積算されることになる。
- 教育実習は現場の課題に適切に対応できる、力量ある教師の養成をめざすための体験学習科目である。
そのうち、「教育実習（1）」（2単位）は中学校一種免許状の場合の必修科目であり、実習校（小学・中学・高校）における観察実習（授業参観）を主体として、3年次の9月に1週間実施される。授業参観の内容は、必ずしも各免許教科に固定されるものではなく、他教科の授業参観も許される。「教育実習（1）」は、教師としての適性の有無を探る機会にもなる。
また、「教育実習（2）」（3単位）は中学校及び高等学校の一種免許状の場合の必修科目（ただし、「工業」の免許状の場合は選択必修科目）であり、実習校（中学・高校）における授業担当を主体として、4年次の5月から7月にかけて2週間実施される。この実習は、教職課程カリキュラム全体の集約として位置づけられる。
- 教職課程の履修手続については、まず履修登録（申請書の提出、**有料**）を、次いで履修申告（履修する科目を履修申告書に記入）を行う。
- 履修上の詳細については、さらに別冊（2年次配付）の『教職課程要綱』を参照すること。
- 学部段階の一種免許状に加えて、学部卒業後の大学院段階では、さらに専修免許状の取得が可能である。本学大学院工学研究科修士課程では、専攻ごとに指定されている科目（「教科に関する科目」）から24単位以上を修得する者は、修士の学位を有するとき、専攻により専修免許状を取得することができる。この点の詳細については、本学の『大学院履修要綱』を参照すること。